

# 榎垣外遺跡発掘調査報告書

## (概報)

平成 11 年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

# 序

平成11年度榎垣外遺跡ほか、岡谷市内遺跡の発掘調査及び試掘・確認調査の報告書（概報）を刊行することになりました。岡谷市には190個所を越える遺跡があり、縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安時代などにわたって多くの遺跡が存在することが知られております。

こうした歴史的な環境にあつて、個人住宅や店舗建設などによる遺跡内での土木工事においては、文化財保護法に基づく届出が多数出され、開発に伴う埋蔵文化財の調査は、毎年、多くの調査件数にのほります。

このような貴重な文化遺産を調査し観察することによって、原始・古代の岡谷の人々の歴史と文化をより一層明らかにすることができました。

さて、本年度の調査件数は20件近くに上り、多くの成果を得ることができました。ここに、平成11年度に実施した個人住宅等小規模開発に伴う試掘・確認発掘調査の概要をまとめ、「平成11年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書（概報）」を刊行しました。埋蔵文化財の保護は土地所有者、事業者等の皆様のご理解とご協力により行われています。発掘調査で得られた成果を公開・活用することにより、これまで以上のご理解とご協力が得られるものと考え、今後この報告書が多くのみなさまに活用されることを願っております。

最後になりましたが、今年度の調査にあたり、深いご理解とご協力をいただきました土地所有者と事業者の皆様にご感謝申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには炎暑、厳寒の中をご苦勞いただきお礼申し上げます。

平成12年3月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

## 例 言

1. 本報告書は平成11年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡試掘・発掘調査の報告書（概報）である。
2. 事業は国の平成11年度国宝重要文化財等保存整備費補助金及び、県の平成11年度文化財保護事業補助金を受けた岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国および県から補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成11年4月1日から平成12年3月17日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが十分な整理が終了していないため、概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書中の原稿執筆は、榎垣外遺跡・鎮守東地籍、上向遺跡を小坂英文、榎垣外遺跡・山道端地籍・下片間町地籍を笠原香里が行い、全体の編集・作図は事務局で行った。

## 目 次

序

例 言 目 次

1. 平成11年度試掘・発掘調査の概要 ..... 1
2. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍 ..... 3
3. 榎垣外遺跡・山道端地籍 ..... 5
4. 遺構の発見された試掘調査 ..... 7

## 1. 平成 11 年度試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され、市教育委員会が対応を行った件数は20件を越えた。試掘・確認調査は17件、8遺跡に及んだ。これらについて以下に概要を記しておく。

榎垣外遺跡の調査では、下片間町地籍から平安時代の住居跡や、竪穴状遺構が発見され、山道端地籍からも平安時代の住居跡が発見された。また、榎垣外遺跡鎮守東地籍では縄文時代前期末の住居跡が発見された。

榎垣外遺跡は、奈良・平安時代に官衙を中心に栄えた集落である。これまでに長大な掘立柱建物址が発見され、住居址からは、円面硯や墨書土器、バックル、刀子など役人の身のまわりの品が出土している。下片間町地籍は、掘立柱建物址や円面硯や刀子が出土する住居址が多く発見されている地域である。今回の調査でも平安時代の住居址や、竪穴状遺構が発掘され、しだいに周辺の様子が明らかとなってきた。

また、山道端地籍は、これまでに一辺10mをこえる大型の住居址が確認されており、出土遺物も、円面硯や刀子、丸軋などが出土して官衙的な様相の強い地域である。今回は一辺3mの小さな住居址が発見され、居住地域の広がりとともに、その中に大小の住居址が共伴することが明らかとなった。

鎮守東地籍では、奈良・平安時代の集落の中心地であると思われたが、意外にも縄文時代前期末の住居址が発見され、あらためて榎垣外遺跡の複合性を感じる成果となった。

上向遺跡はこれまでも縄文時代中期中葉・後葉の集落として知られているが、今回の試掘調査では、縄文時代中期中葉の住居跡が何棟も重複して発見され、あらためて遺構密度の高い遺跡であることが明らかとなった。

	調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構・遺物の時代
1	4.1~5.13	榎垣外(下片間町)	長地字下片間町 2375-1	共同住宅建設	平住3	平安
2	5.7	榎垣外(小田野汐上)	長地小田野汐上 3085-1	住宅建設		平安
3	5.10	原沢	川岸東五丁目 6917番1	住宅建設		縄文
4	5.25~6.3	榎垣外(鎮守東)	長地 2993番地	個人倉庫建設	縄住2	縄文
5	5.31	峯堂	川岸上二丁目 970-1	住宅建設		
6	6.3~6.16、10.26	上向	長地字大橋向 6211番7外	住宅建設		縄文
7	6.16	上向	長地字大橋向 6211-1	住宅建設		縄文
8	6.16~6.28	扇平	長地 5742 外	住宅建設		縄文
9	6.28~7.8	榎垣外(山道端)	長地字山道端 2326-4	住宅建設	平住1	平安
10	9.27~10.15	上向	長地上向 6152	共同住宅建設	縄住8	縄文
11	10.20	海戸	天竜町三丁目 1-6	公会所建設		弥生
12	10.20~10.21	榎垣外(町尻北)	長地字町尻北 3241-6	住宅建設		
13	10.26	昌福寺裏	川岸東四丁目 7307-3	住宅建設		
14	11.27~11.29	榎垣外(柿垣外)	長地 2286 番 10	住宅建設		平安
15	2.9~2.10	榎垣外(古屋敷)	長地古屋敷 414-1	住宅建設		平安
16	2.9~2.10	東町田中	長地南町尻 1517-1 外	住宅建設	竪穴状遺構	
17	2.10~2.16	榎垣外(向田)	長地字向田 4707-1	児童公園敷地		平安

第 1 表・平成 11 年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試掘・確認発掘調査地点 (番号は第1表の一覧表に同じ)

## 2. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地2993番地  
発掘調査の期間 平成11年5月25日～6月3日  
調査の原因 個人倉庫建設  
調査面積 168.4m<sup>2</sup>  
発見された遺構 縄文時代前期 末住居址1棟  
縄文時代 住居址1棟  
発見された遺物 石鏃3点 磨石2点 石皿1点  
石錐1点 土器片・石片1箱

榎垣外遺跡は、これまでの発掘調査により役所跡である長大な建物址や、刀子、円面硯、丸柄など当時の役人が使用したり身に付けていた遺物が出土して、奈良・平安時代の官衙址であるとともに、大きな集落であったことが明らかとなりつつある。

今回調査が行われた個所の周辺でも、奈良・平安時代の遺構・遺物が発見されており、当初、同時代の遺構の発見があると予測された。しかし発掘調査を行うと、耕作土層からは土師器片が出土したが、さらに掘り進めを行うと攪乱を受けていない暗褐色土層から縄文式土器破片や黒耀石片が出土することが判った。このため精査の結果、地



第2図 トレンチ1・2・3



第3図 トレンチ3



第4図 6号住居址出土土器

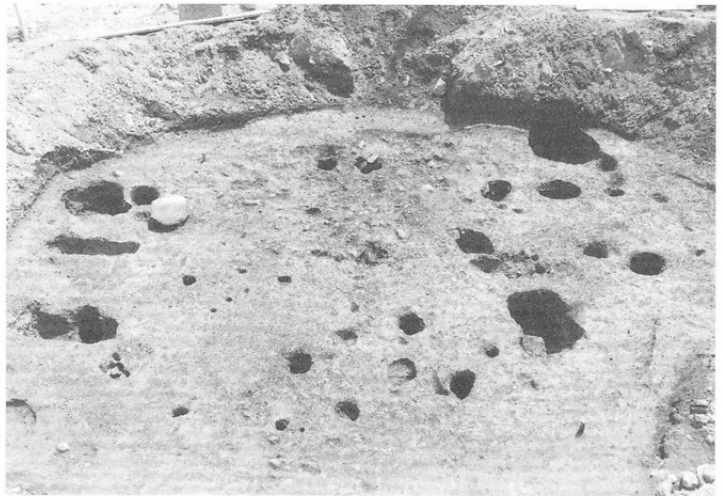


第5図 6号住居址出土石鏃

山よりやや暗い暗黄褐色土層を覆土とする縄文時代前期末ころの第6号住居址を発見することができた。平面形は南北に長い楕円形で掘り込みは地山を10cmほど掘り込んであり、床面は踏みしめられたような堅さである。住居内にはいくつもの小穴があるが支柱穴は判定できなかった。復原可能な土器の出土はないが、若干の土器破片が出土し、石器では黒曜石製石鏃や石皿が発見された。

本址に壊されている第7号住居址が発見されたが、出土遺物はほとんど無く、具体的な時期は不明である。

鎮守東地籍での縄文時代の遺構の発見は初めてであるが、300mほど北へ上った地点では縄文時代中期初頭の小竪穴群が発見されており、縄文時代集落の変遷を考える上で貴重な成果が得られた。



第6図 6・7号住居址



第7図 6・7号住居址 (1:80)

### 3. 榎垣外遺跡・山道端地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地字山道端 2326-4  
 発掘調査の期間 平成 11 年 6 月 28 日～7 月 8 日  
 調査の原因 個人住宅建設  
 調査面積 26 m<sup>2</sup>  
 発見された遺構 平安時代 住居址 1 棟  
 発見された遺物 凹石 1 点 打製石斧 1 点  
 土器片・石片 1 箱



第 8 図 35 号住居址

榎垣外遺跡・山道端地籍は、平成 9 年度の調査において掘立柱建物址や、多数の平安時代住居址が発見されているため、今回の調査でも平安時代の遺構の発見が予想された。

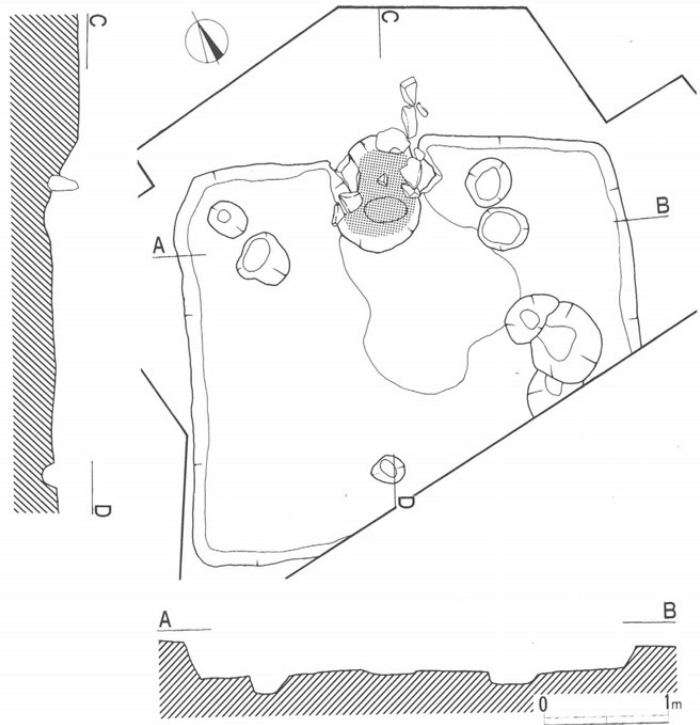
調査は、トレンチを 4 箇所設定して掘り進めを行い、遺構、遺物の検出を行った。

このうちの 1 箇所、地表面から 40cm 掘り下げた土層から土師器片や、灰釉陶器片が出土し、さらに掘り進めたところ、地表面から 50cm ほどの深さでカマドの袖石と思われる径 15～20cm の礫と構築材と思われる黄色土が発見され、住居址の壁と思われる落ち込みが確認されたため、住居址の方向を想定し、トレンチの拡張を行った。その結果、この遺構は東西 3.6 m、南北 3.1 m の平安時代住居址（35 号住居址）であることが判った。

この 35 号住居址覆土の掘り進めを行ったところ、遺構確認面よりさらに 15～20 cm 掘り下げた覆土中から、住居の北側を中心に径 15～20 cm 大の礫が約 40 個発見された。礫



第 9 図 35 号住居址出土甕底部



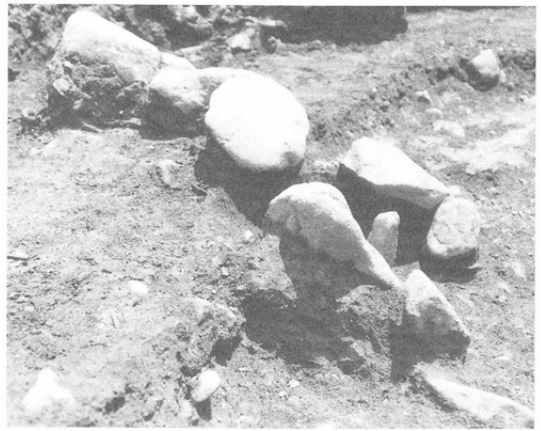
第 10 図 35 号住居址 (1 : 60)



を取り除くと1 cmほど下から住居の床面が発見されるため、これらの礫は住居が廃絶されてすぐに入り込んだものと思われる。

床面の精査を行うと、この住居址は黄色砂礫層を掘り込んだものであることがわかった。貼床はなく、カマド南側に踏み固められたような固い面がみられる。明瞭な柱穴は発見されなかった。住居址壁は、遺構確認面より15～20 cmの明瞭な掘り込みが確認されたが、周溝・壁柱穴は発見されなかった。カマドは両袖石が若干残る程度で損傷が激しく、天井石も残っていなかった。天井部の崩落とおもわれる構築材は赤色になるほど焼けているが、火床面は若干赤く変色する程度であった。火床面中央には支脚が3 cm埋め込んで固定し立てられていた。

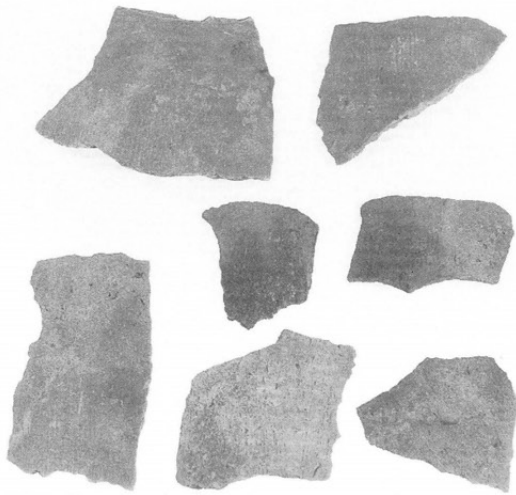
遺物は覆土、床面直上ともに少なく、復原可能な土器等は発見されなかった。



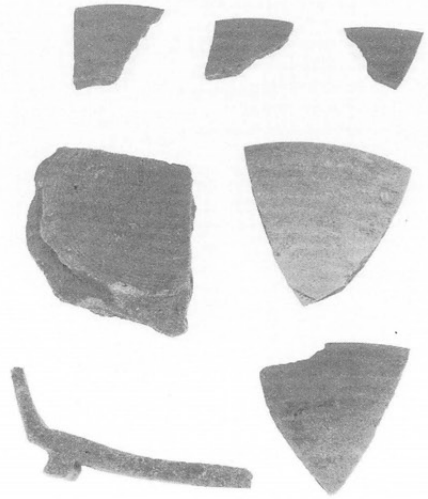
第11図 35号住居址カマド



第12図 35号住居址カマド



第13図 35号住居址出土甕破片



第14図 35号住居址出土坏破片

#### 4. 遺構の発見された試掘・確認調査

##### (1) 榎垣外遺跡・下片間町地籍

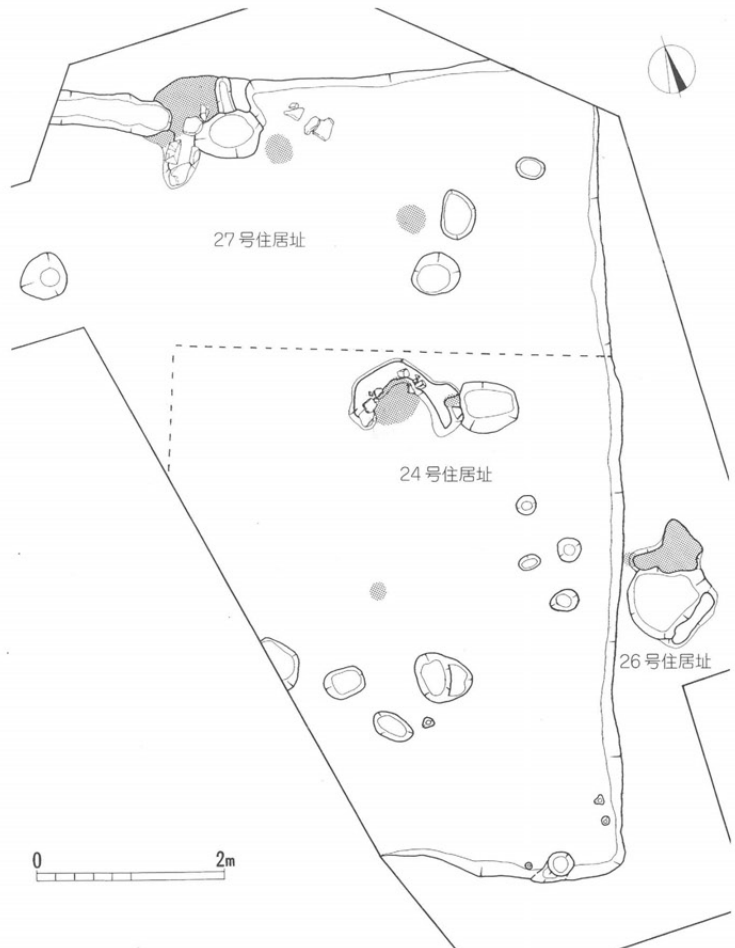
発掘調査の場所	岡谷市長地字下片間町 2375-1
発掘調査の期間	平成 11 年 4 月 1 日～5 月 13 日
調査の原因	共同住宅建設
調査面積	232.5 m <sup>2</sup>
発見された遺構	平安時代 住居址 3 棟 竪穴状遺構 2 基
発見された遺物	須恵器皿 1 点 須恵器坏 3 点 土師器皿 1 点 土師器坏 1 点 打製石斧 3 点 石皿 2 点 石鏃 8 点



第 15 図 24・25・26 号住居址

調査は、トレンチを 2 m おきに設定し行った。2 箇所から遺構と思われる部分が発見されたため、トレンチを拡張し、掘り進めを行った。

調査区北東部分から発見された遺構は、3 棟の重複であることがわかった。24 号住居址の大きさは、北壁がカマド中央から北東隅まで 4 m、東壁 8.2 m のやや大型の住居址で、遺構確認面から 10 cm ～ 20 cm の明瞭な掘り込みが発見された。北壁中央に構築されたと思われるカマド東側袖石は残っておらず、西側袖石も床面に立てて構築材で固定しただけのカマドである。床面には貼床されず、黄色砂礫層を踏み固めた程度の堅さである。住居址の隅には内



第 16 図 24・25・26 号住居址 (1 : 80)

側約2mのところに、直径40cm、深さ30cmほどの小穴が発見され、柱穴と思われる。25号住居址は、24号住居址と重複しており、24号住居址覆土を掘り込んで作られた北壁中央と思われる所にカマドが構築されている。このため25号住居址の方が新しい住居址であることが判った。カマドは24号住居址同様、袖石を床に埋め込まずに構築材で固めて作られており、火床面の焼土はおよそ2cmの厚さに焼けていた。カマド内から土師器甕破片が発見された。26号住居址は、カマドと思われる焼土と構築材が24号住居址東壁の外側に発見された。袖石等は残っておらず、住居の掘り込みも発見されなかった。構築材中から土師器片が若干発見された。

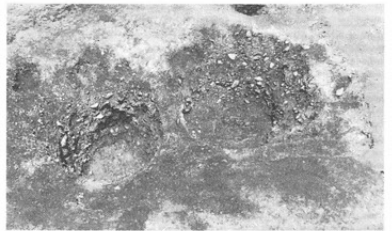
調査区南東部分から発見された遺構は、発見された時の平面形が方形だったため、当初2棟の住居址の重複かとおもわれたが、検出面より30cmほど掘り下げると円形になり、深さ1.5mと深さ1.2mの2基の摺鉢状の竪穴状遺構となった。墨書土器や須恵器片を多く出土した。同様の遺構は平成3年度の調査でもこの地籍から発見されている。



第17図 24号住居址カマド



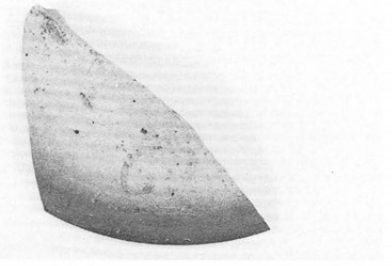
第18図 25号住居址カマド



第19図 竪穴状遺構2・3



第20図 24号住居址出土須恵器蓋



第22図 竪穴状遺構2出土墨書土器



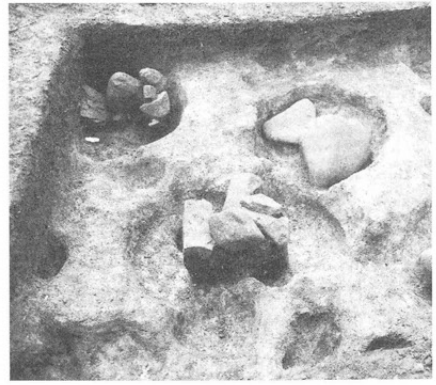
第21図 竪穴状遺構3出土墨書土器



第23図 竪穴状遺構2出土墨書土器

## (2) 上向遺跡

発掘調査の場所	岡谷市長地上向6152
発掘調査の期間	平成11年9月27日～10月15日
調査の原因	共同住宅建設
調査面積	176.8m <sup>2</sup>
発見された遺構	縄文時代中期 中葉住居址8棟 縄文時代 小竪穴26基
発見された遺物	縄文時代中期 中葉土器26点 打製石斧49点 石鏃26点 凹石37点 石製装飾品1点



第24図 G-40トレンチ内ピット

上向遺跡は、横河川の右岸にある河岸段丘上の遺跡で、明治時代より玉類の出土する縄文時代の重要な遺跡として知られている。昭和56年の市道拡幅工事では縄文時代中期中葉の住居址群が発見され、また翌57年の隣地畑地での調査でも縄文時代中期の住居址群などが発見されている。

今回は住居址群からやや外れると予想されたため、用地に試掘のためのトレンチを設定し、遺構の有無を探った。その結果、畑の西側には若干の小竪穴が発見されたただけであったが、東側の部分は、縄文時代中期の住居址などの遺構が密集していることが明らかとなった。

このような状況から、遺構の分布状態を調査するため、試掘トレンチは東側を重点に設定して掘り進めを行い、縄文時代中期中葉住居址8棟、小竪穴26基を確認することができた。さらにこれまでの過去の調査資料と併わせ考えると、横河川右岸の河岸段丘上には特に河川に近い方に、居住のための住居址が作られ、川からはなれる山側には小竪穴群が形成されていることが明らかとなりつつある。

また縄文時代中期中葉の比較的近い期間に、遺構が集中している状態は、縄文時代中期中葉の集落を復原するために重要な資料となった。



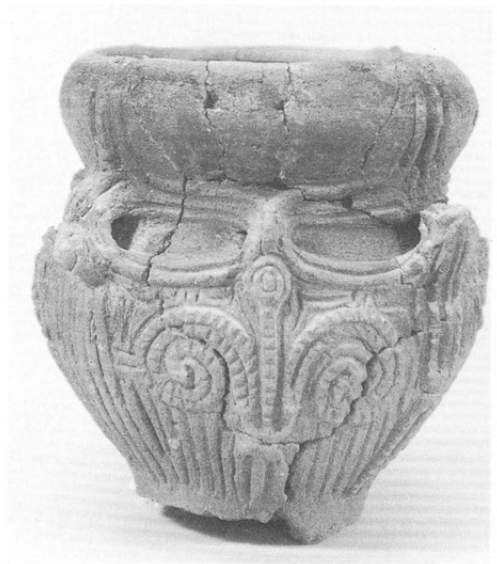
第25図 25号住居址出土土器



第26図 25号住居址出土土器



第27图 25号住居址出土土器



第28图 25号住居址出土土器(埋甕)



第29图 25号住居址出土土器



第30图 38 P出土石製裝飾品



第31图 石鏃



第32图 凹石

# 報告書抄録

ふりがな	えのきがいと							
書名	榎垣外遺跡発掘調査報告書（概報）							
副書名	平成11年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長野県岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL0266-23-4811							
発行年月日	西暦 2000年3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
えのきがいと 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	134	36度 4分 32秒	138度 4分 8秒	19990525 ～ 19990603	168.4	個人倉庫建設
えのきがいと 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	133	36度 4分 28秒	138度 3分 48秒	19990628 ～ 19990708	26.0	個人住宅建設
えのきがいと 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	133	36度 4分 28秒	138度 3分 40秒	19990401 ～ 19990513	232.5	共同住宅建設
うわむかい 上向	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 いまい 今井	20204	109	36度 5分 9秒	138度 3分 7秒	19990927 ～ 19991015	176.8	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
榎垣外	集落	縄文	縄文時代住居址2	石鏃3 石錐1 石皿1 すり石2				
榎垣外	集落	平安	平安時代住居址1	凹石1 打製石斧1				
榎垣外	集落	平安	平安時代住居址3 竪穴状遺構2	須恵器杯3 土師器杯1 墨書土器 打製石斧49 石鏃26 凹石37				
上向	集落	縄文	縄文時代住居址8 縄文時代小竪穴26	石製装飾品1 縄文時代土器26				

